



目次	説教 イエスは彼らを深く憐れんで - 五千人の給食 - …… 住谷 翠 …… 1
	教会の課題 人権委員会の役割は何か。 どこにどう足を踏みしめて立ち、どこへと向かうのか? …… 金田 聖治 …… 2
	旧約聖書に聴く 「コヘレト、むなしさ」(二) …… 片野安久利 …… 3
	信仰問答を学ぶ 『ハイデルベルク信仰問答』(三) …… 登家 勝也 …… 4
	今、教会を考える⑩ 今、目の前にいる人々 …… 田中 伊作 …… 5
	教会、この地とともに 長崎伝道所 …… …… 6
	こいのにあ キリシタン研究所資料館の開設 - 大分県竹田市紀行 - …… 田中 豁 …… 7
	さんびかに生かされて 心と口と手をもって …… 佐藤 悦子 …… 8
	教会ニュース …… …… 8

## イエスは彼らを深く憐れんで - 五千人の給食 -

天を仰いでそれを祝福し、パンをさいて弟子たちに渡された。弟子たちはそれを群衆に与えた。みんなの者は食べて満腹した。(19-20節)

(マタイによる福音書14章13-21節 口語訳)

すみ たに みどり  
住 谷 翠

神の国で楽しい飲食をするという、神の国の饗宴は、どの民族にとっても夢であったようです。神がこの饗宴に招いてくださるのは、神さまが親しく交ってくださるというしるしです。現代、多くの方が「別にそんなことはけっこうです」と言うかもしれませんが、それは人間としてこの上のない光栄であり、幸いな光景でありました。

主イエスの「五千人の給食の物語」と言われるこの話は、主がバプテスマのヨハネという人が捕らえられ、殺されたという報告を聞かれ、ひとりになるため、寂しい所に行こうとさたところから始まります。主はヨハネの死をいたみ、またご自分のこの世に来られた目的であります死のことを、父なる神のみ前で、よく考えてみたかったのではないかと思います。しかし、群衆は遠慮会釈なく、彼のあとを追ってきたと書かれています。湖を舟で行かれる主を、徒歩で追ってきたのです。救いを求める必死な姿がうかがえます。

主イエスは舟から降りられると、ひとりになろうとされた地に大勢の群衆が待ち構えているのをごらんになられたのです。ひとりで神に祈る時を持つという望みはじゃまされたわけですが、その大勢の人たちの顔をごらんになり、主は彼らを「深くあわれまれた」と書かれています。そして、救いを求めてきた人たちと、しばしの間、天国の交わりを共にする機会を持たれたのです。

夕方になったので、弟子たちは、群衆を解散させ、村にめいめいで食物を買いに行かせようとしていました。弟子たちの配慮は当然のものでしたが、主イエ

スには、別のお考えがありました。そうではなく「あなたがたの手で食物をやりなさい」と弟子達に言われたのです。しかし彼らは、これはとうてい不可能だと答える他はなかったのです。

主はそのわずかなものを手に取り、祝福し、裂いて弟子たちに渡され、弟子たちはそれを群衆に渡しました。そうして「みんなの者は食べて満腹した」というのです。ヨハネの死の報告のあと、主がご自身の受難を予測しつつ、人々に分け与えられたのは、最後の晩餐の先取りとも思われます。主はこの人たちを見て、何を深くあわれまれたのでしょうか。それは、罪のために神から愛される価値がないと心のどこかで思っていた人たちです。終末の神の審判の時は近づいていると、言われていました。天国に入れるのはファリサイ派の人たち達によると、ごくわずかでした。それが、ヨルダン川に突然現れた預言者ヨハネは、罪を告白し、悔い改めの洗礼を受ければ天国に入れてあげようと言ってくれたのです。しかし、あのヨハネは死んでしまったのです。罪の故に、神の祝福から遠かったこの人たちに、本来神に造られた者として受ける祝福が、与えられた話と言えます。この神からだけ頂ける命の糧は、人数が増えても減ることはないのです。

人びとが啓蒙され、成人したと言われるこの時代、これからの時代、神がキリストのこの奇跡をどのように貫いてくださるのか、それは人間にはわかりません。弟子たちは心配していました。しかし、神は奇跡の主であることを忘れてはならないと思います。(小平教会牧師)